

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2792800068		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホーム たのしい家西九条		
所在地	大阪市此花区西九条3-4-73		
自己評価作成日	令和4年7月14日	評価結果市町村受理日	令和4年9月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「あたたかくアットホーム」「家で暮らすように」をコンセプトとしており、スタッフが思いやりを持ちご利用者と関わっています。
 ご利用者がご自身で出来る事はしていただき 役割(ゴミ捨て・洗濯物たみ・掃除・調理など)を持つ事で生き生きとした生活を送っていただけるように努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	令和4年8月17日		

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の年間ビジョンを職員が話し合っって作成し、理念の実践につなげている。「家で暮らすように」をコンセプトに、季節感・生活感を取り入れた環境づくり・手作り調理を行っている。季節のイベント、日々のレクリエーション、家事参加、食事・おやつレクリエーション等、日常生活の中で楽しみや役割が持てるよう支援している。PDCAサイクルにもとづいたケアマネジメントが定着しており、自分らしい生活が継続できるよう個別支援に取り組んでいる。毎月「通信」を郵送し、運営推進会議時の返信で家族の意見を収集し、家族との連携を大切にしている。研修体制の整備、人事考課制度、毎朝の朝礼・毎月のフロア会議・全フロア回覧ファイル等により、職員の資質向上と連携に努めている。医療連携体制を整備し、希望に応じて看取り介護も行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あたたかくアットホームな、たのしい家」という理念を職員と共有し、グループホームの特性である柔軟な対応を心がけています。	法人の理念をもとに事業所の理念を作成し、その実践に向け年間のビジョンを作成している。年間ビジョンは地域密着型サービスの意義をふまえ、地域交流への取り組みも明示している。年間ビジョンは毎年職員の話し合いによって具体的な内容で作成し、エレベーター内に掲示して共有している。また、フロア会議等で立ち戻って検討し、実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在は、コロナ感染防止の爲 地域との交流をストップしています。コロナの感染状況を見ながら交流を持つ機会を考えています。	コロナ禍以前は、西九条カフェ(認知症カフェ)の開催・地域行事への参加・保育園との交流・ボランティアの来訪・高校生の実習の受け入れ等、地域交流・地域貢献に取り組んでいた。コロナ禍のため通常の交流や外出を休止しているが、自治会への加入や回覧板、運営推進会議や集会での民生委員との連携、地域住民や地域包括支援センターからの相談対応等、可能な方法で地域とのつながりが継続できるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在はコロナ感染防止の爲、運営推進会議やイベントでの人の集まりを中止しています。コロナの感染状況を見て考えていきたいと思っています。		

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為 運営推進会議は書面で開催しています。家族様の意見や意向を取り入れて、サービスの向上に努めています。	利用者・家族・地域代表(民生委員)・地域包括支援センター職員・事業所職員を構成委員として、2ヶ月に1回開催している。コロナ禍以降は書面開催とし、構成委員(全家族含む)に議事録と返信用紙を郵送し、入居者状況・職員状況・行事・事故・体制変更等を報告している。多数の家族からの返信があり、「意見及び要望」欄に返信された意見等を記載して共有している。それらをもとに「事業所としての改善点」を記載して、サービスや運営に反映できるよう取り組んでいる。公開用ファイルを玄関に設置し、議事録を公開している。	運営推進会議の構成委員として、知見者の参加が得られる取り組みが望まれます
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	民生委員の集会に参加させて貰う事があります。町会としての活動は コロナ禍の為中止が続いており参加できていません。	運営推進会議や利用者対応等を通して地域包括支援センターと連携している。区のケースワーカーと協働し利用者支援を行っている。民生委員の集会・運営推進会議を通して、民生委員と協力関係を築いている。報告や相談事例があれば市の窓口にお問い合わせ、適正な運営や感染防止に反映している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修、カンファレンスにて身体拘束について話し合える機会を設けていると共に、身体拘束適正化委員会を3か月に1回開催しており、議事録を回覧し理解を深めています。	「身体拘束等の排除マニュアル」「身体拘束等の適正化のための指針」を整備し、身体拘束をしないケアを実践している。3ヶ月に1回「身体拘束適正化検討委員会」を開催し、身体拘束廃止に向けた事業所の取り組みや参加者の所見を議事録に記録している。往診医の所見も聴き取り、記載している。委員会の議事録は、システム内で職員が閲覧し共有している。「虐待・身体拘束防止研修」を、年2回オンライン研修で実施し、報告書の入力を受講を確認している。フロアの入り口は開錠操作が必要であるが、外出の希望があれば玄関前や近隣の公園等に職員が同行し、閉塞感を感じないように支援している。	

グループホーム たのしい家西九条

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内外の研修、カンファレンスにて虐待についての理解を深め、防止に努めています。コンプライアンス研修にて再度虐待防止について話し合っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて理解を深め、必要に応じて支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約においては説明に十分な時間を設け、納得して頂けるよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、アンケート等にて意見要望を把握し、運営に反映しています。	利用者の要望は日常のコミュニケーションの中で把握し、買い物等個別に対応している。コロナ禍で通常の面会が出来ないため、家族の意見・要望は、電話・メール・運営推進会議の「利用者家族の意見」(返信用紙)・法人が行う満足度調査アンケート等から把握に努めている。毎月「たのしい家通信」を郵送し、行事の様子や誕生月の利用者を写真で紹介し、個人欄に利用者個別のコメントを記載し、意見・要望を出しやすいように生活の様子を伝えている。把握した意見・要望は、支援経過記録やケース記録に記録し、タブレット内の申し送りで共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼、フロア会議にて意見や提案を吸収し運営に反映しています。	毎朝の朝礼で情報・意見交換や検討を行い、タブレット内の申し送りで共有している。月1回フロア会議を実施し、職員の意見・提案を利用者支援・介護計画・業務等に反映できるよう取り組んでいる。行事についても、担当職員の意見をもとに計画・実施している。各フロアの議事録・行事の計画書を回覧ファイルで全職員に回覧し、事業所全体で情報共有している。管理者やフロアリーダーが、随時面談を行い職員の意見を個別に聴く機会も設けている。	

グループホーム たのしい家西九条

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	誰伸び制度という人事考課制度にて職員の努力や実績を把握し給与に反映しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員は4日間の本社での研修を受けた後、1日は他施設で研修しています。1ヶ月、3ヶ月、半年、1年経過後に再度本社研修を受講しています。又、社内外の研修に参加できる機会を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の施設連絡会、他施設の見学会を通し同業者と交流を持つ機会を図っています。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントをスタッフ間で共有し、安心して頂けるようなコミュニケーションを図っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント時に現在の状況、不安な事を確認し関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	経済面、病歴等、今の現状に対しどのようなサービスが適切か、ご本人、ご家族との話し合い、適切なサービスを受ける事ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作り、共同作業、レクリエーション等を通し馴染みの関係が築けるよう努めています。		

グループホーム たのしい家西九条

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活を通じて本人の希望や意向を把握し、家族様の意見も取り入れ介護計画を作成しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していたサービス等、継続できるものは事業所でも継続しています。	コロナ禍以前は、家族・友人の来訪があり、館内散歩等で併設事業所や他のフロアの利用者と交流し、また、散歩・買い物・自宅への帰宅・墓参り等、家族の協力を得ながら、馴染みの人や場所との関係継続を支援していた。コロナ禍以降は、通常の交流や外出を休止している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で関係性を把握し、食事席、外出時のグループ分け等に反映しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりが必要な場合は、相談や支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を伺うことが困難な場合でも、表情や仕草を観察し、できるだけ本人本位になるようにしています。	入居時に把握した生活歴・要望・趣味嗜好に関する情報を「フェイスシート」に記録し、介護計画や支援に反映できるよう取り組んでいる。入居後のコミュニケーションで把握した内容は、介護記録や支援経過記録に記録し、タブレット内の申し送りやフロア会議で共有している。「フェイスシート」の情報も3ヶ月毎に更新している。把握が困難な場合は、表情やしぐさから推察したり、家族からの情報を参考に、利用者の意向に沿った支援ができるよう努めている、	

グループホーム たのしい家西九条

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント時に生活歴やサービスの利用状況等、不安な事を確認し関係作りに努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録、アセスメント、往診、訪問看護を通じて心身の状態の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、家族様の意向把握し必要に応じてカンファレンスを行い介護計画に反映しています。	「フェイスシート・アセスメントシート」「ケアチェック表」をもとに初回の介護計画を作成している。各フロアに利用者個々の介護計画の支援内容をまとめた書面を設置し、職員が介護計画を理解し、計画に沿った支援と記録ができるよう取り組んでいる。支援内容は、タブレットの介護記録に記録している。毎月フロア会議で利用者状況や介護計画について検討し、定期的には3ヶ月に1回介護計画の見直しを行っている。見直しの際は、「評価表」によるモニタリング、「フェイスシート・アセスメントシート」「ケアチェック表」による再アセスメントを行い、サービス担当者会議を開催している。会議では、利用者・家族、主治医等関係者の意見も取り入れて検討している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、アセスメントシートを利用して介護記録の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や家族様の状況に応じ、柔軟に対応できるよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、多くの選択肢を入居者様に提供できるよう努めています。		

グループホーム たのしい家西九条

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力医療機関の説明を行っているが、昔から通院している馴染みの病院がある際は、家族様に選択して頂いています。	入居時に協力医療機関による医療連携体制を説明し、利用者・家族の意向に沿った受診を支援している。月2回の往診、週1回の訪問看護、希望に応じて歯科・心療内科・マッサージの往診を受けられる体制がある。他科については、通院による受診となり、家族対応を基本としているが、状況に応じて職員が同行している。医師には、主治医からの紹介状や職員からの説明で情報提供している。往診・通院等医療に関することは、介護記録と支援経過記録に記録している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態に変化があった場合は訪問看護師に連絡を取れる体制にあり、必要に応じて適切な医療機関への連携、事業所内での対応のアドバイスをして頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、家族様との連携を密にし、現状の把握、情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合における対応に係る指針について説明し同意をえています。重度化した場合には医師と家族と事業所で話し合いを重ね、個々にあった対応をしています。	契約時に重要事項説明書の「重度化対応・終末期ケア対応に係る指針」「急変時・終末期における医療などに関する意向確認書」に沿って説明し、意向確認し同意を得ている。重度化した段階で、家族・主治医・事業所で今後の方針について話し合い、サービス担当者会議録に記録している。看取り介護の希望があれば、看取りの同意書、看取りに向けた介護計画を作成し同意を得ている。法人のオンライン研修で「ターミナル研修」を実施すると共に、事例があれば都度フロア内での研修も行っている。	

グループホーム たのしい家西九条

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急対応や初期対応についてはカンファレンスなどで定期的に全職員に説明し実践できるようにしています。	/	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の消防訓練を実施しています。現在はコロナ感染防止の爲 教養型防火・防災訓練を実施しています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の入居者様の今までの生活状況を把握し、人格を尊重しながら声掛けをしています。	法人のオンライン研修で、「虐待・身体拘束防止研修」「接遇マナー研修」「認知症対応研修」等を実施し、人格尊重・誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応について学ぶ機会を設けている。気になる言葉かけや訪室・身体介護時の対応があれば、管理者・フロアリーダーが都度助言し、意識向上に努めている。利用者の写真・映像の使用については契約時に文書で同意を得、個人ファイルは各ユニットの鍵付き書庫に保管し、プライバシー・個人情報の保護を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望は取り入れ、自己決定の難しい方は日常的なケアの中で思いを汲み取るようにしています。	/	

グループホーム たのしい家西九条

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様とのコミュニケーションを通じ、できる限り要望に応えることができるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の協力を得ながら、その人らしいオシャレができるよう努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の能力に応じて食事準備、後片付けをスタッフと共に行っています。	業者から献立と食材が届き、各フロアで調理して提供している。献立には、季節感や行事食も取り入れられている。普通食からミキサー食まで、個々に合わせた食事形態に各フロアで対応している。職員が検食を行い、利用者や職員の意見を検食表で業者に伝える仕組みがある。利用者の力量に応じて、食事準備や後片付けに参加できるよう支援している。月に1回は行事として定期的に、それ以外にも利用者の希望に応じて随時に、食事レクリエーションやおやつレクリエーションを行っている。桜弁当・握り寿司(手作り)・餃子・広島焼き・どら焼き・パフェ・スイカ割り等、食事やおやつを楽しむ機会作りを積極的に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量は記録に残し、好みの飲物、食事等を把握し提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行い、必要に応じて訪問歯科の協力を得ています。毎月、訪問歯科医や歯科衛生士の指導によりスタッフがより良い方法で口腔ケアを行っています。		

グループホーム たのしい家西九条

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、個々の状況に合わせた時間で声掛けや誘導を行っています。	タブレット内の排泄記録で排泄状況や排泄パターンを把握し、利用者個々のタイミングで声かけ・誘導し、可能な限りトイレでの排泄を支援している。日中はほとんどの利用者がトイレで排泄を継続している。支援方法や排泄用品の使用について検討事項があれば、主にフロア会議で検討して介護計画書に反映し、現状に即した支援につなげている。ドアの開閉・声かけ等、プライバシーへの配慮について周知を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表にて個々の排便状況を把握し、内服薬に頼らない排便コントロールを心がけています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スタッフが二人以上いる時間帯で希望に合わせて入浴できるように支援しています。	週2回の入浴を基本とし、午前・午後の時間帯を設け、利用者の体調や気分に合わせて入浴できるよう柔軟に対応している。タブレット内や別紙の入浴記録で、入浴状況を把握している。一般浴槽で一人ずつ湯を入れ替え、自身のペースでゆっくり入浴が楽しめるよう支援している。身体状況や希望に応じて、シャワー浴や同性介助に対応し、入浴に拒否がある場合はタイミング・声かけ・対応職員を変更する等、個別に配慮している。入浴剤を使用し、入浴がより楽しめる工夫も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	認知症に配慮して入眠を促す時もあるが、消灯時間、起床時間は特に決めておらず個々の生活習慣に合わせています。		

グループホーム たのしい家西九条

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を個々のファイルにて管理しており、副作用に注意しなければならない内服薬に関しては連絡ノート等を使用し注意を促しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	近隣散歩や家事等それぞれの状況に応じた支援を行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ感染防止の観点から 外出は控えております。近隣の公園や散歩などは外に人が少ない時間帯で、スタッフ付添で出掛けています。	コロナ禍以前は、近隣の公園への散歩・買い物等の日常的な外出、季節感を感じる外出行事、遠足等の外出支援を行っていた。コロナ禍のため通常の外出は休止しているが、時間帯や時期を勘案し、近隣への散歩、初詣・花見等、可能な方法を工夫して外出支援を行っている。また、敷地内の戸外に出て、外気浴や気分転換できる機会作りも行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の能力や希望に応じ、お小遣いを管理し外出時に使う機会を持てるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて支援しています。		

グループホーム たのしい家西九条

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく落ち着いた環境で過ごして頂けるよう配色や飾り付けを工夫しています。又、季節に応じた風物を居室の横に飾っています。	共用空間は、明るく、清潔感があり、家庭と同じような落ち着いた環境づくりを行っている。空気清浄機の設置・消毒・常時換気等、衛生管理を徹底している。テーブル席とテレビ・ソファのコーナーがあり、各フロアの状況に応じてテーブルの配置や配席を工夫し、居心地よく過ごせるよう配慮している。毎月、各利用者が季節や行事に因んだ作品を職員と一緒に制作し、各居室前のメモリーボックスに飾り季節感が感じられる。前月の作品は、エレベーターホールに展示している。七夕やクリスマス等の際は、笹飾りやクリスマスツリー等を飾っている。併設のキッチンから調理の音や匂いが感じられ、調理準備や後片付け、洗濯物たたみ、ゴミ出し等の家事参加を支援し、生活感を取り入れている。毎食前の体操(下肢・口腔・リハビリ・ラジオ)を日課とし、グループや個別でのアクティビティもやっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にソファを設置し、個別のスペースを持てるよう配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族、ご本人と相談し、以前の生活環境に近づけるよう使い慣れた家具を持ってきて頂き落ち着いた暮らせる居室作りをしています。	各居室に、クローゼット・ベッド・コールボタン等が設置されている。箆筒・テレビ・机・椅子等の使い慣れた家具や道具、仏壇・遺影・人形等の大切なものを持ち込み、居心地よく過ごせる環境づくりを行っている。動線に配慮した家具の配置を考慮したり、緩衝剤・センサーマットを使用する等、利用者個々の状況に応じて安全に自立した生活が継続できるよう環境整備に努めている。	

グループホーム たのしい家西九条

評自 価己	評外 価部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	分かりやすく簡単に様々なものを使用する事が出来るよう配慮しています。		